

学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善

「説得力のある意見文を書く力」を育成する授業

令和3年度コアティーチャープロジェクト部会小学校部会

＜授業の趣旨＞

本授業は、「学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善」として、「授業改善」と「演習問題の活用」の一体化を図ることを目的とした授業である。

具体的には、令和3年度の全国学力・学習状況調査小学校国語科の大問³を参考に、第5学年12月単元「読み手が納得する意見文を書こう『あなたは、どう考える』」を構想した。大問³は、設問が3つあるが、単元構想では設問1と設問2を取り上げた。以下に、調査問題の解説と調査問題を取り入れた単元構想について述べたい。

設問1

設問1の趣旨は、「自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかを見る」ことである。提示されている意見文は、教科書教材と同じ双括型の文章構成であり、教科書教材の構成の特徴を捉えさせる際に、同様の設問が使える。また、練習問題としても調査問題を使うこともできる。文章構成を考える設問は、過去の調査でも取り上げているが、問い方によって正答率の低い年もある。令和3年度の設問は、比較的易しい設問である。

設問2

設問2の趣旨は、「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る」ことである。ここでは、自分の意見と異なる意見を取り上げて、それに対する反論を書く（反駁）という書き方を取り上げている。そして、「実際に掃除を担当している人の話」を、反論に使う根拠として記述する設問になっている。調査問題では、反論の部分を詳しく書き直す場面を設定し、次の3つの条件で反論するように指示してある。

- ・ 「そうじ担当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見と、その理由を書くこと。
- ・ 「西田さん（遊具置き場のそうじ担当）の話」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- ・ 60字以上、100字以内で書くこと。

この条件から、次のように記述することを指導したい。

- ① 二文構成で書く。一文目に反対の意見を書き、二文目にその理由・根拠を書く。但し、一文目と二文目の構成は入れ替えてもよい。
- ② 理由には、「西田さんの話」を根拠として取り上げる。

自分の意見と異なる反論を取り上げてそれに反論する書き方は、教科書教材でも取り上げられているが、5年生の児童には、少し難しい思考操作であることが予想される。児童は、自分の意見に対する反論にはどんなものが出そうかを考えること、さらにそれに反論するためにどのような理由・根拠を示せばよいかを考えることになる。つまり、自分の意見と異なる意見との関係、異なる意見とそれに反論する理由・根拠との関係をしっかり理解し、自分の表現に役立てていくことが求められる。

設問2を単元に具体化する場合、調査問題での反論の不十分さを理解したり、教科書教材で反論を取り上げてそれに反論することの効果とその表現法を理解したりする学習活動を設定する。その際、文字数、条件、記述時間を設定し、児童への意識化を図っていく。そして、これらの学習を生かして、自分の意見文に取り入れて書かせていく。

第5学年国語科学習指導案

1 単元名・教材名 読み手が納得する意見文を書こう 「あなたは、どう考える」

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

本学級の児童は、10月単元「グラフや表を用いて書こう」で、自分の考えを伝えるために、目的に応じた資料を引用しながら書く学習をしてきている。本単元では、これを受けて、理由や根拠を明確にして読み手が納得する意見文を書く力を育成することがねらいである。

(2) 児童の実態

書くことを苦手としている児童には、次の点において課題がある。

- 意見は書けるが、それを支える理由やその根拠を挙げることに困難を感じている。
- 段落の役割を意識して、段落の役割に応じて書くことが苦手である。
- 一文を長く書き過ぎたり、主語と述語の関係が適切でなかったりする。

読み手が納得するためには、理由付けや根拠が重要である。文章を苦手としている児童には意見を支える理由・根拠を挙げられない傾向がある。また、理由が重複するなど構造化されていなかったり、読み手を納得させる妥当性のある根拠が示せていなかったりする。理由や根拠は、意見文には不可欠な要素であり、意見との関係を中心に重点的に指導していく必要がある。

(3) 教材の特性

教科書教材として、二つの意見文が掲載されている。一つは、新聞に掲載された意見文で、もう一つはその投書を読んで書いた意見文である。これらの意見文を比較することで、次の点を学ばせることができる。

- どちらも〔主張—理由・根拠—反論への反論（反駁）—主張〕の双括型の4段落構成になっている。
- 意見を支える根拠として、岡本さんは、経験や体験、伝聞・知識を挙げている。木原さんは、伝聞・知識を中心に挙げている。これらの他にも、データ、名言なども根拠になる。
- より説得力のある意見文にするために、自分の意見に対する反論を取り上げてそれに反論する（反駁）部分がある。反論への反論の書き方は、本単元で初めて学ぶことである。教科書にある二つの意見文は、反論を取り上げて反論するという書き方が共通している。

(4) 指導に当たって

意見文は、それを読む人が納得し、書き手と同じ考えになってもらうために書かれた文章である。重要なのは、どんな人に、何を納得してもらうかという相手・目的意識である。本単元では、共通の論題についての意見文を書くという言語活動を設定する。共通の論題で意見文を書かせることの意味は次の3点である。

- 意見を支える理由・根拠の客観性、妥当性などを相互に検討することができる。
- 反論への反論の仕方をアドバイスし合うことができる。
- お互いの意見文を読み合うことで、自分の考えを深め、広げるとともに、読み手に納得してもらうための工夫を相互評価することができる。

そこで、次の点に留意して指導を展開していく。

① 学習課題を設定し、学習の見通しを持たせる場面。

単元の導入では、「あやまるときは、電話がいいか、手紙がいいか」の論題で、一次意見文を書かせる。そして、各自が書いた一次意見文をもとに課題を出し合い、意見文の書き方についての問題意識をもたせ、学習計画を協議させる。

② 意見文の構成や書き方を理解させ、定着を図る場面。

教科書に掲載されている二つのモデル意見文を比べて読ませ、文頭や文末表現に着目しながら双括型の4段落構成を捉えさせる。その後、全国学力・学習状況調査の調査問題を使い、構成の工夫を捉える演習をさせる。用いる調査問題は、令和3年度大問³の設問1である。この設問は、文章構成上の工夫を指摘する選択式の問題である。また、平成19年度の国語B大問⁴も使うことができる。この調査問題は、同じ話題について書かれた2つの意見文を比較しながら構成の特徴を捉える問題である。

③ 理由・根拠を吟味する場面。

二つのモデル意見文を使って、理由・根拠として何を取り上げているかを調べさせ、それが読み手が納得できる意見文に必要なことであることを理解させる。この理解を基に、自分の一次意見文に挙げた理由・根拠を評価させる。その際、同じ意見の児童同士で検討させることで、より読み手が納得できる理由・根拠を吟味・選択させていく。

④ 反論への反論（反駁）の表現を理解し、使う場面。

モデル意見文を基に、自分の意見への反論を取り上げてそれに反論しているという型に気付かせたり、全国学力調査問題にある反論が不十分な文章を提示し、何をどのように書けばよいかを丁寧に指導したりして、「～かもしれない。しかし、～」という思考語彙に着目させながら反論への反論の表現の仕方とその効果を理解させる。そして、理解したことを活用させるために、調査問題の設問2に取り組みさせて定着状況の評価する。反論への反論を自分の意見文に取り入れる際は、意見が異なる児童との対話の場を設定し、自分の意見文に対する反論を捉えさせる。そして、同じ意見の児童と対話しながらその反論に対する反論を協議させてくなど、対話的な学びを効果的に設定する。

⑤ 学習をふり返り、まとめる場面。

単元の終末では、修正して書いた二次意見文を意見の異なる友達と交流し、自分の考えの深まりや広がりを実感させる。また、意見を支える理由・根拠の妥当性や反論への反論の効果についてなど、意見文の書き方の面でも相互評価させる。

単元を通して、自分の問いに対する学習のふり返りの場を設定し、自分の学習を修正しながら主体的に学習に取り組む学習調整力を育成していきたい。

3 単元の指導目標

- 意見文の特徴や構成、反論する際の文と文との接続の関係について理解することができる。〔知識・技能(1)カ〕
- 自分の意見を伝えるために必要な理由や根拠を集め、分類・整理して意見をより明確にすることができる。〔思考力・判断力・表現力等ア〕
- 双括型の文章構成に合わせて、段落の役割を考えながら事実と意見・感想を区別して書いたり、反論の型を使って説得力のある文章を書いたりすることができる。〔思考力・判断力・表現力等ウ〕
- 自他の意見文について、文章構成や理由・根拠の妥当性、反論の表現の工夫などのよさを伝え合

うことができる。〔思考力・判断力・表現力等カ〕

- 自分の問いをもって学習に取り組み、学びを修正しながら自分の学習を調整することができる。
〔学びに向かう力・人間性等〕

4 単元の評価規準

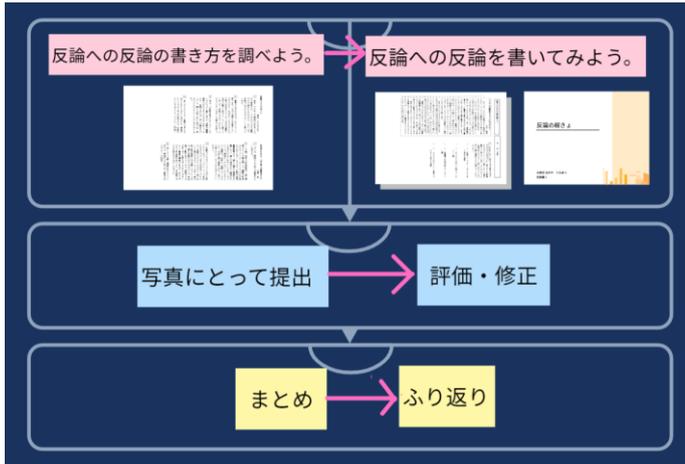
- 意見文の特徴や構成，反論する際の文と文との接続の関係について理解している。【知・技】
- 自分の意見を伝えるために必要な理由や根拠を集め，分類・整理して意見をより明確にしている。
【思判表】
- 双括型の文章構成に合わせて，段落の役割を考えながら事実と意見・感想を区別して書いたり，反論への反論の型を使って説得力のある文章を書いたりしている。【思判表】
- 自他の意見文について，文章構成や理由・根拠の妥当性，反論への反論の表現の工夫などのよさを伝え合っている。【思判表】
- 自分の問いをもって，学びを修正しながら自分の学習を調整して粘り強く学習を進めようとしている。【主体的態度】

5 指導計画（全6時間）

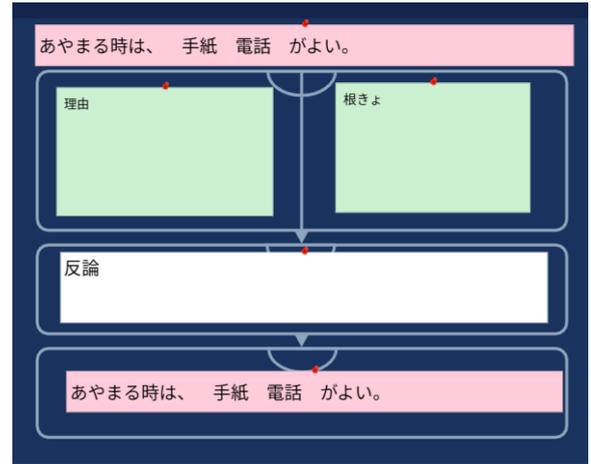
次	時	主な学習内容	指導上の留意点
一次	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">単元を見通し，学習計画を立てよう。</div> 1 意見文の目的と特徴を知る。 2 「あやまるときは，電話がいいか，手紙がいいか」について意見交換をする。 3 一次意見文を書く。 4 意見文の書き方の課題を出し合う。 5 単元の学習課題を設定し，学習計画を協議する。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">読み手に納得してもらおう意見文を書こう。</div> 6 新出語句・漢字を知る。	<教材・教具> ・一次意見文を書くワーク ○ 一次意見文から課題を発見させ，問題意識をもたせる。
二次	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">意見文の構成や書き方を調べ，自分の意見文に生かしたいところを見つけよう。</div> 1 教科書に掲載された新聞投書と意見文を比べて読み，意見文の構成や書き方のポイントを捉える。 (1) どのような構成になっているか調べる。 ・〔意見―理由・根拠―反論への反論―意見〕の双括型の4段落構成である。 (2) 文末表現に着目し，考えと事実の書き分けを調べながら，各段落の役割を理解する。 2 文章構成を捉える調査問題を解く。 3 自分の意見文に取り入れたいことや改善点をワークにメモする。	<教材・教具> ・教科書の投書と意見文 ・全国学力・学習状況調査問題 ・一次意見文を書くワーク ○ 構成を捉えさせる場面では，前単元の「グラフを用いて書く」学習と関連付けさせる。 ○ R2 年度調査問題設問1を使って，文章構成の理解状況を評価する。

	3	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">理由・根拠にどんなことを書けばよいか考え、大まかな構成を考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の意見文に書かれた理由と根拠を調べ、その効果を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 岡本さん：自分の経験や体験，母の言葉 ・ 木原さん：安全教室の講師の言葉，資料からの引用 2 自分の意見文の理由・根拠を見直す。 3 友達と話し合い，よりよい理由・根拠を選択し，大まかな構成表を作る。 	<p><教材・教具></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロイロノート ・ 一次意見文を書くワーク <p>○ 根拠には，その他にデータや名言などもあることを知らせる。</p> <p>○ 一次意見文を評価させ，意見と理由・根拠の関連性を検討させる。</p> <p>○ ロイロノートで構成メモを考えさせる。</p>
	4 (本時)	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">読み手に納得してもらおう文章にするための反論はどう書けばよいか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教科書の意見文を基に，反論への反論の書き方を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と異なる立場からの考えを取り上げ，それに理由や根拠を示して反論している。 2 調査問題の反論の不十分な点を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 反論に反対する意見は書いてあるが，その理由や根拠が不十分である。 3 調査問題の設問を条件に合わせて書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 何を，どう書くか。 4 書いたものをタブレットで写真に撮り，提出する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 提出されたカードを相互評価する。 	<p><教材・教具></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロイロノート ・ 全国学力・学習状況調査問題 ・ 一次意見文を書くワーク <p>○ 反駁の型について複数示す。</p> <p>○ 理由・根拠の効果を考えさせる。</p> <p>○ 文字数，条件，時間等の条件を意識させる。</p> <p>○ 提出されたカードを使って，反論の仕方を評価させる。</p>
	5	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">反論を取り入れた構成を考え，意見文の下書きをしよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分と異なる意見に反論を書き合い，取り上げる反論を決める。 2 反論の理由・根拠をどのようにすればよいか，同じ立場の友達と考える。 3 ロイロノートの構成表に，反論への反論のカードを加える。 4 自分の意見文の下書きをする。 	<p><教材・教具></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ロイロノート ・ 一次意見文を書くワーク <p>○ 反論する場合の理由・根拠は，同じ立場の友達と協議させる。</p> <p>○ 400字程度の意見文を書かせる。</p>

本時の展開



構成メモ



【ワーク 1】

1 先日、けがをして病院に行きました。その病院では、しんさつ（シンサツ）のときに番号でよび出されるのですが、わたしは、名前でよばれるほうがいいと思っています。

岡本 ちひろ（11）

2 番号でよばれるのは、分かりにくく感じます。そばに近所のお年寄りがいたのですが、よばれているのになかなか気づきませんでした。「三三三番を、三三三番だと思っていた。」と言っていました。名前でよんでくれれば、このようなかんちがい（カンチガイ）は起こりません。

3 母は、「名前を知られたくない人もいるから。」と言いますが、住所や電話番号が分かるわけではありません。それに、名前であれば、本人が聞きのがしても、周りの知り合いが気づき、声をかけられるというよい点もあります。

4 多くの人にとって、名前でよばれるほうが分かりやすいはずですが、病院でかんじやさんをよび出すのは、名前がよいのではないのでしょうか。（356字）

安全のために、よび出しは番号がよい

1 ぼくは、病院のよび出しは番号がよいと考える。 木原 良

2 この間、学校の安全教室で、個人情報についての話を聞いた。講師の町田さんは、「インターネットは、だれが見るか分からないものです。名前や住所、電話番号など、個人に関する情報を公開すると、個人が特定され、悪用されるおそれがあります。」とおっしゃっていた。病院も、だれがいるか分からない場所だ。名前も、通院していることも、大切な個人情報である。他の人に知られないようにするほうがいいだろう。

3 名前だけならだいじょうぶだと思っても、かもしれない。しかし、けいび会社からもらった「子ども防犯ブック」には、「名前でよびかけられると、知り合いかと思っただん（ダン）してしまう。持ち物の記名場所には注意しよう。」とある。顔と名前が分かるだけでも、安全面で心配があるといえる。病院でのよび出しは、名前のほうが分かりやすいという意見も理解できるが、分かりやすさと安全面を比べると、安全面のほうが大切なのではないだろうか。

4 多くの人の個人情報を守るという点から、病院のよび出しは、番号のほうがよい。（451字）

